

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
実用新案登録第3188969号  
(U3188969)

(45) 発行日 平成26年2月20日(2014.2.20)

(24) 登録日 平成26年1月29日(2014.1.29)

(51) Int.Cl. F 1  
E 0 6 B 9/04 (2006.01) E 0 6 B 9/04 H

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2013-3824 (U2013-3824)  
(22) 出願日 平成25年6月18日(2013.6.18)(73) 実用新案権者 509132141  
今泉 兼四郎  
東京都港区高輪4-14-1  
(72) 考案者 今泉 兼四郎  
東京都港区高輪4-14-1

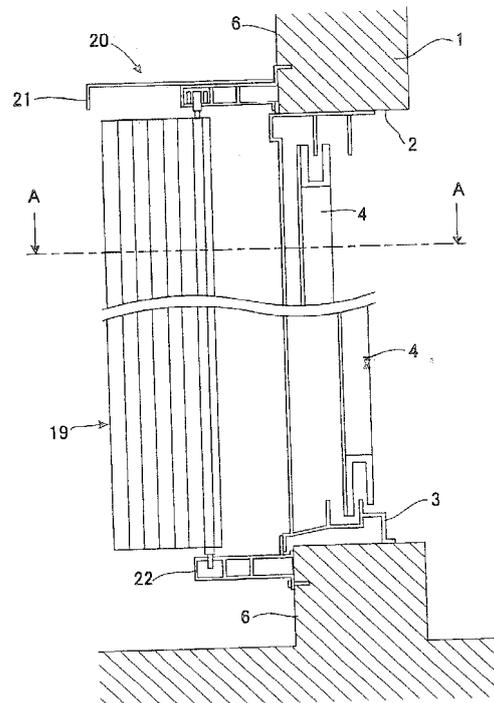
(54) 【考案の名称】 ブラインド式雨戸

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 建物の躯体に既に取付けてある落とし込みドレンに枠を簡単に取付ける事ができるブラインド式雨戸を提供する。

【解決手段】 上レール及び下レールを有するブラインド式雨戸において、上レール及び下レールは角パイプにビス留めされており、角パイプには落とし込みドレンにビス留めするためのビス穴を設ける。

【選択図】 図1



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

建物の窓、又は、扉に取り付ける伸縮性自在な雨戸であって、前記雨戸の取付方法を特徴とするブラインド式雨戸。

**【考案の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本考案は、ブラインド式雨戸に関し、特に、屈伸リンクにより開扉または閉扉するブラインド式雨戸に関する。

**【背景技術】****【0002】**

従来の横引き雨戸では、閉扉時には、外の光を完全に遮断し、通気もできないため、採光や通気が必要なときは一旦開扉しなければならない。一方、開扉すると、採光や通気は可能となるものの、家屋等の中が外から見えてしまったり、外部から侵入しやすくなったりといったプライバシーや防犯上の問題が発生する。このようなことから、外出時には雨戸を完全に閉扉する必要があるため、採光及び通気することが非常に困難である。

**【0003】**

このような問題を解決するためのものとしてブラインド式雨戸がある。

このブラインド式雨戸は、屈伸リンクにより連絡させた複数の板状のスラットを、上部及び下部のサッシに沿って移動可能なように上部のサッシから吊設したものである。

その屈伸リンクをサッシに沿って伸長させると、それら複数のスラットが板の略正面を向き、雨戸が開扉状態となる。一方、その屈折リンクをサッシに沿って収縮させると、それら複数のスラットは雨戸正面から所定の角度を傾いてお互いに平行に重なり、雨戸が閉じた状態のまま各スラット間が開口し、採光及び通気を行うことができる。また、このブラインド式雨戸は、開扉又は閉扉するとき、雨戸全体をスライドさせずに折り畳むようにすることから、従来の横引き雨戸と比べて軽微な力で開扉又は閉扉することができるようになっている。

**【0004】**

このようなブラインド式雨戸に関するものとして、特許文献 1 が開示するところのブラインド式雨戸が提案されている。この特許文献 1 に開示されるブラインド式雨戸は従来のブラインド式雨戸と同様に複数のスラットが雨戸の正面から所定の角度傾いて互いに平行になり雨戸が閉じた状態のまま各スラット間が開口するように構成されており、閉扉したままある程度の採光及び通気が可能となっている。また、このブラインド式雨戸は従来のものに比べて取付部材の軽量化や取付方法の簡易化等により家屋への取付が容易になっている。

**【特許文献 1】 特許第 2 9 5 8 3 0 4 号****【0005】****(ブラインド式雨戸の構成)**

以下、本実施の形態におけるブラインド式雨について説明するが、便宜上、雨戸の外側を表面、家屋側を裏面、表面側からみて左右両端側を側面とする。図 1 は本考案の一実施形態におけるブラインド式雨戸開扉時の縦断面図である。

また、図 2 は、本実施の形態における開扉時の横断面図であり、図 1 の A - A 線で切った断面を示している。図に示すように、建物 1 の壁面には、窓又は、扉用の開口部 2 が設けられており、この開口部 2 にはサッシ 3 が設置されている。また、このサッシ 3 のガイドレールに沿ってスライド開閉可能なように、窓戸 4 がサッシに取り付けられている。

また、建物 1 の外壁 6 には、ステンレス又はアルミニウム製の雨戸用案内枠 20 が固定されている。この雨戸用案内枠 20 には、窓戸 4 を閉じるための左右一対のブラインド式雨戸 19 が、窓戸 4 の開閉方向と略同方向に開閉可能なように嵌合されている。なお、このブラインド式雨戸 19 は、例えばアルミニウム製である。

**【0006】**

10

20

30

40

50

図 3 は前述の雨戸用案内枠 20 の表面側を示す図である。図に示すように、この雨戸用案内枠 20 は、開口部 2 に対して四辺形状に形成されている。また、雨戸用案内枠 20 はこの四辺形状の上辺部を構成する上枠 21 と下辺部を構成する下枠 22 と側辺部を構成する左右一対の縦枠 23 と有して構成されている。

【0007】

図 4 は、そのブラインド式雨戸 19 の正面図である。また、図 3 は、そのブラインド式雨戸 19 の拡大斜視図である。

図に示すように、ブラインド式折戸 19 は、短冊状に形成された複数のスラット 38 と、この各スラット 38 の上端部及び下端部を連結する伸縮自在のレージトング 41 と、上側のレージトング 41 を底体 37 のガイドレール 39 内にガイド穴 40 を介して転動自在に吊支するガイドローラー 42 と、下側のレージトング 41 を下枠 22 のガイドレール 39 内にガイド穴 40 を介して移動可能に係合させるガイドピン 43 とを有して構成されている。

10

【0008】

スラット 38 は、細長い板体により構成され、上下端部に前記レージトング 41 が取り付けられている。

また、このスラット 38 は、両側端部に相反する方向へ折曲された係止縁 44 を有し、この係止縁 44 には上下方向に沿って凹溝 45 が形成されている。この凹溝 45 には、細長状に形成されたシール部材 46 (例えばゴム材など) が固着され、各スラット 38 の係止縁 44 同士が密着したときの水密性を向上させている。

20

【0009】

また、レージトング 41 は、形状の異なる二種類のリンク 47a、47b を中央部で軸着して X 字状に回転自在に組み合わせた複数組をヒンジ結合してエキスパンダー式に伸縮自在に構成されている。

そして、このレージトング 41 を構成するリンク 47a は、一方が横断面円弧状に折曲形成されたプレート (折曲角度が緩やかに設定されている) により構成されている。

また、リンク 47b は断面 L 字状に折曲形成されたプレートにより構成されている。このリンク 47b には、スラット 38 の上下端部が狭持固定されている。

【0010】

図 6 は、そのブラインド式雨戸 19 の横断面図である。図に示すように、ブラインド式雨戸 19 の端部には、鍵・錠などのロック機構を有する框部 55 が取り付けられている。この左右両框部 55 は、左右のブラインド式雨戸 19 が閉じられたときには、互いに接触して、ロック機構により固定される。

30

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0011】

このブラインド式雨戸の取付方法は、従来は壁面に枠にビスを通して取付していたが、(公序良俗違反につき、不掲載) 壁面に落とし込みドレソがありその内にボルトで取付けする事になった。

【課題を解決するための手段】

40

【0012】

本考案は、取付面にある落とし込みドレソにボルトにて取付ける事にした。

【考案の効果】

【0013】

本考案の効果は、壁面にビスで取付ける事なく躯体に既に取付けている落とし込みドレソに対してボルトを埋め込むことにより簡単に取付けが可能となった。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図 1】本考案の一実施形態におけるブラインド式雨戸の開扉時の縦断面図である。

【図 2】本考案の一実施形態における開扉時の横断面図である。

50

【図3】本考案の一実施形態における雨戸用案内枠の表面側を示す図である。

【図4】本考案の一実施形態におけるブラインド式雨戸の正面図である。

【図5】本考案の一実施形態におけるブラインド式雨戸の拡大斜視図である。

【図6】本考案の一実施形態におけるレージトング及びガイドローラの部分を拡大した分解斜視図である。

【図7-1】本考案の一実施形態におけるブラインド式雨戸の取付図面である。

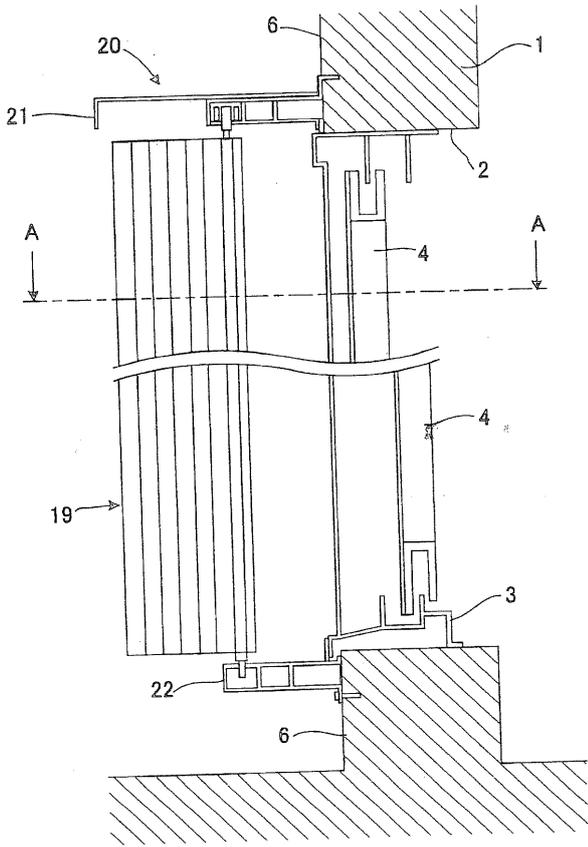
【図7-2】本考案の一実施形態におけるブラインド式雨戸の取付図面である。

【符号の説明】

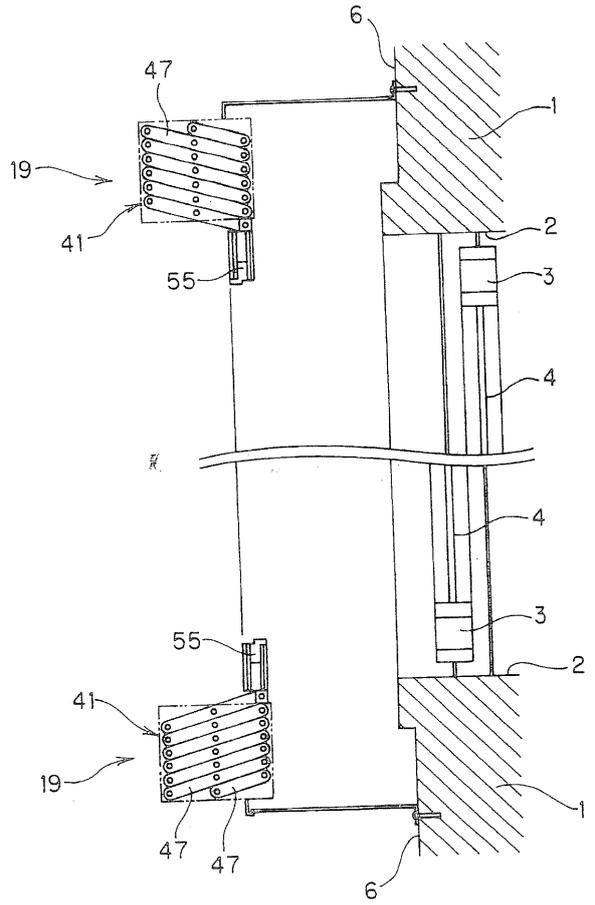
【0015】

1	建物	10
2	開口部	
3	サッシ	
4	窓戸	
6	外壁	
19	ブラインド式雨戸(スラット)	
20	雨戸用案内枠	
21	上枠(ヒサシ)	
22	下枠	
23	縦枠	
24	124 枠本体	20
25	125 張出部	
26	弾性体	
27	固定具	
29	接着剤	
30	枠本体	
31	固定部	
32	保持部	
36	係合部	
37	庇体	
38	スラット	30
39	139 ガイドレール	
40	140 ガイド穴	
41	レージトング	
42	ガイドローラ	
44	係止縁	
46	シール部材	
47 a、47 b	リンク	
50	回転軸	
51	ローラ部	
52	ベアリング	40
55	框部	
55 a	段差	

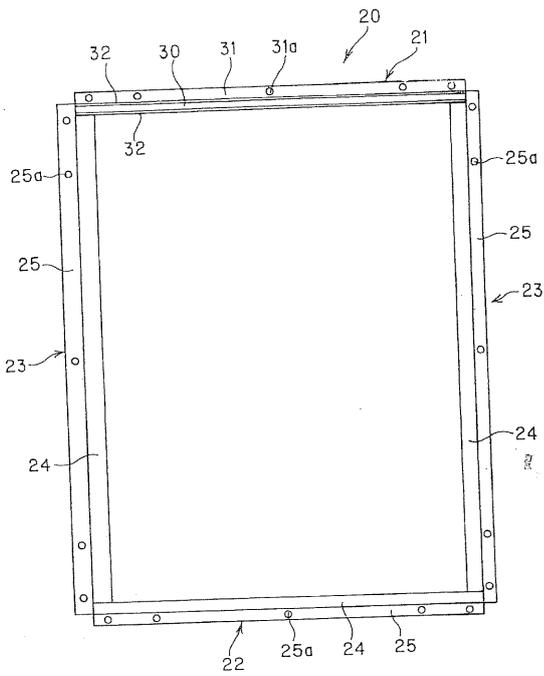
【 図 1 】



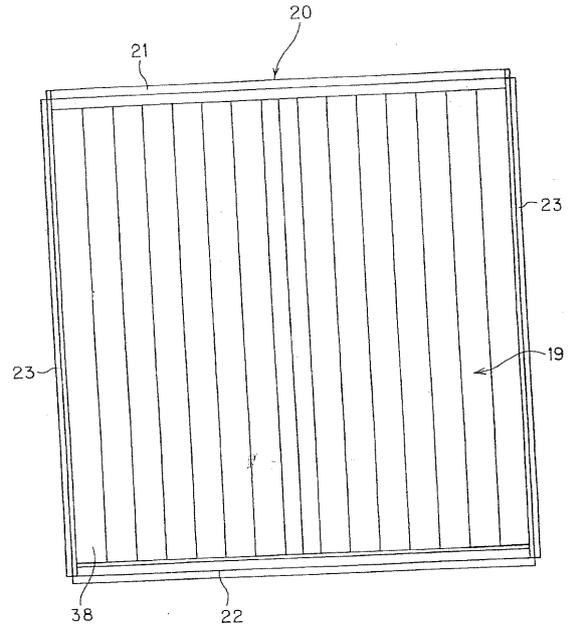
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】





## 【手続補正書】

【提出日】平成25年9月20日(2013.9.20)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

上レールで下レールを有するブラインド式雨戸において、前記上レール・下レールは角パイプにビス留めされており前記角パイプはドレンにビス留めのためのビス穴を有するブラインド式雨戸

## 【手続補正書】

【提出日】平成25年11月28日(2013.11.28)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

上レール及び下レールを有するブラインド式雨戸において、前記上レール及び前記下レールは角パイプにビス留めされている前記角パイプはドレンにビス留めのためのビス穴を有するブラインド式雨戸

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

このブラインド式雨戸の取付方法は、従来は壁面に枠にビスを通して取付たが、住宅メーカーの中には、壁面に落とし込ドレンがありその内にボルトで取付する事になった

## 【手続補正3】

【補正対象書類名】図面

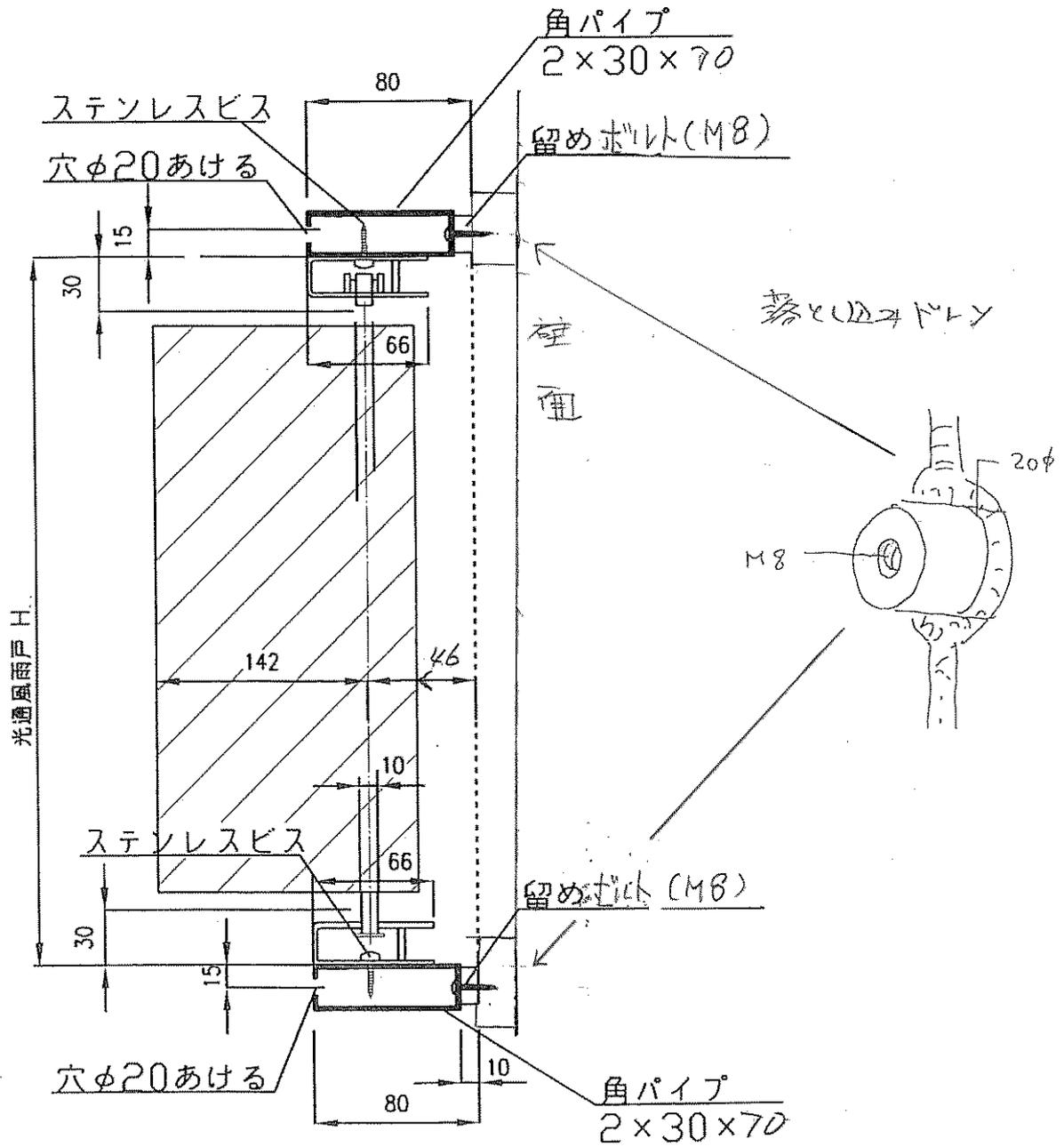
【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】

＜縦断面図＞



【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図7 - 1

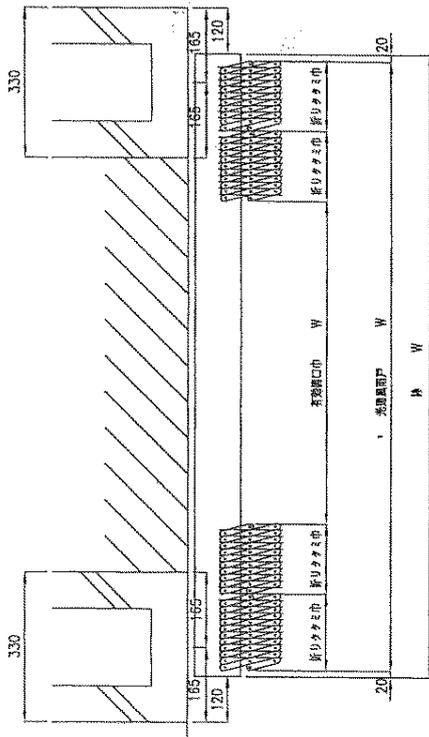
【補正方法】変更

【補正の内容】

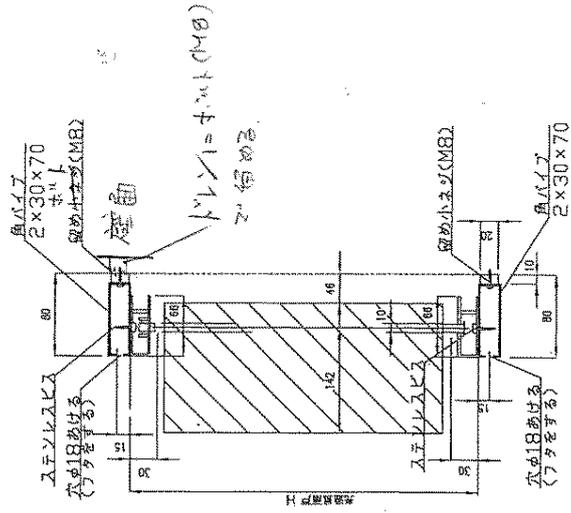
【図7-1】

仕様  
 色 : シルバー  
 型 : パンチング加工(コモド)  
 板厚 : 1.5mm  
 カマチ、鍵、立枠 : 無  
 固定なし : (左右どちらでも開閉可能)  
 取り付け位置 : 手すりの外側につける

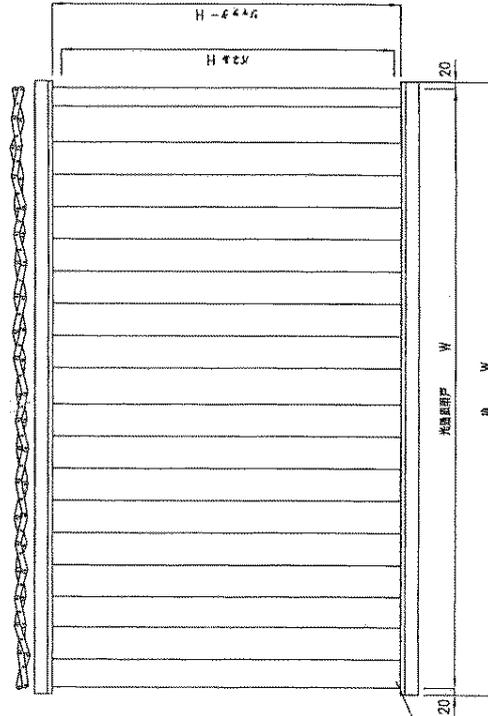
〈平面図〉



〈縦断面図〉



〈姿図〉



(実際の枚数と異なります)